

# 学校いじめ防止基本方針

令和7年4月  
西尾市立東部中学校

## 1 学校いじめ防止基本方針の概要

### (1) いじめの防止についての基本的な考え方

いじめは、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である。また、どの生徒も被害者にも加害者にもなりうる。二度とあの平成6年の悲劇を繰り返してはならない。教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、生徒のいじめ防止自主組織「ハートコンタクト」を機能させながら学校全体で組織的に対応していく。

「見たら、聞いたら、感じたら」を合言葉とする。

何より学校は、生徒が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場でなくてはならない。生徒一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。そうした中で、生徒が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

### (2) いじめ防止対策組織

「いじめ・不登校・問題行動対策委員会」を設置し、いじめのささいな兆候や懸念、生徒からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。校長、教頭、教務主任、校務主任、生徒指導主事、保健指導主事、養護教諭、学年主任、担任の全職員で構成し、必要に応じてスクールカウンセラー、教育アシスタント等を加える。

#### ① 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認

- ・学校評価アンケートを行い、学校におけるいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討していく。

#### ② 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。
- ・対策委員会議や職員会議等で、日頃から気になる生徒について情報共有に努め、指導方針や指導方法等の共通理解を図る。
- ・生活アンケートや教育相談の結果の集約、分析、対策の検討を行い、対象生徒に応じた適切ないじめ防止対策に努める。

#### ③ 生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

- ・随時、学校のたよりやブログ等を通して、いじめ防止の取組状況や学校評価結果等を発信する。

#### ④ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）

- ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。
- ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
- ・問題が解消したと判断した場合も、その後の生徒の様子を見守り、継続的な指導・支援を行う。

### (3) いじめの防止等に関する具体的な取組

#### ① いじめの未然防止の取組

- ・生徒同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくりを進める。
- ・グループエンカウンター、アサーショントレーニングの授業を実施することにより良好な人間関係づくりを進める。

- ・生徒の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。
- ・情報モラル教育を推進し、生徒がSNSの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないよう継続的に指導する。SNSの使い方を「東中宣言2025」として全校生徒で作成する。
- ・教師と生徒との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。
- ・いじめ相談電話等、外部の相談機関を紹介し、生徒が相談しやすい環境を整える。
- ・生徒の自主組織である「ハートコンタクト」の思いやり活動を支援するとともに、話し合いの場を設けたり、毎年11月に「いじめについて考える集会」を実施したりして、いじめ問題に対する意識の継続を図る。

各学年のテーマ 1年「全員が安心して過ごすために」  
 (R6の例) 2年「心地よい人間関係をつくるために」  
 3年「中学卒業後の人生を生き抜くためには」

## ② いじめの早期発見の取組

- ・生徒の様子を観察したり、会話や日記等の内容を把握したりする中で、気になる行動について、学年会や職員会、対策委員会等で情報交換をする。
- ・生活アンケートや教育相談を定期的に実施（年3回）し、生徒の小さなサインを見逃さないように努める。

## ③ いじめに対する措置

- ・いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校・問題行動対策委員会」を中心に組織的に対応する。
- ・被害生徒を守り通すという姿勢で対応する。
- ・加害生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- ・教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラー等の専門家や、警察署、児童相談所等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- ・いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりの再構築を行う。
- ・ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

## (4) 重大事態の対応

- ・重大事態が生じた場合は、速やかに市教育委員会に報告をし、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。
- ・学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ・不登校・問題行動対策委員会」を開き、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応する。
- ・調査結果については、被害生徒、保護者に対して適切に情報を提供する。

## (5) 学校の取組に対する検証・見直し

- ・学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、PDCAサイクルで見直し、実効性のある取組となるように努める。
- ・いじめに関する項目を盛り込んだ教職員による取組評価及び全校生徒・保護者への学校評価アンケートを毎年12月に実施し、いじめ・不登校・問題行動対策委員会がいじめに関する取組の検証を行う。

## (6) その他

- ・人権尊重や生徒指導、いじめ防止に関する校内研修を年1回以上計画し、生徒理解やいじめ対応に関する教職員の資質向上に努める。
- ・「学校いじめ防止基本方針」は、ホームページに掲載する。
- ・長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

## 2 重大事態の対応フロー図





